

Close up

だて

シリーズ ふるさと探訪②

「洛中洛外図屏風」

伊達市に住む私たちが知っていないそうで知らない歴史や裏話を生涯学習課文化財係がシリーズでお届けします。



開拓記念館所蔵「洛中洛外図屏風巨理伊達本」  
製作年代は江戸時代中期

16

世紀初頭、にぎやかな京都の全風景を屏風に描いた「洛中洛外図屏風」が作られるようになりまし。そこには応仁の乱から復興し、新たな近世都市へと発展する京都の姿がつつぶさに描かれています。

この屏風にはルールがあり、左右2つの屏風で1組としています。描き方も二条城から見て東側の風景を右側の屏風に、西側の風景を左側の屏風に描くことになっています。

市開拓記念館所蔵の洛中洛外図屏風には、京都の西側が描かれています。本来であれば東側を描いたもう一つの屏風があったはずですが、残念ながら失われています。さて、記念館所蔵の屏風をクローズアップしてみましょう。洛中洛外図屏風は京都の名所や春夏秋冬の各種行事が描かれています。



金色ではなく黒い金閣寺

て、なかには現存しているものもあります。

それぞれの名所には「張り札」が付いていて、地名などがわかりやすく「ひらがな」で書かれています。

屏風を見ると金閣寺・西本願寺・清水寺・豊臣秀吉が京都をぐるりと取り囲んで作らせた御土居（土塁）を見つれることができます。この屏風では金閣寺が金色ではなく黒で色づけされていますが、理由は謎です。

市では、この屏風を使った新しい展示手法を考案中です。8月にカルチャーセンターで行った「仮称」総合文化館スタートアップ展示では、屏風に描かれている人々が動く展示が好評でした。完成後の（仮称）総合文化館には実物も展示されますので、ぜひ足を運んでみてください。



今は世界遺産に登録されている西本願寺

表紙のはなし



今年の「だて農業・漁業・大物産まつり」は、爆弾低気圧の影響で、気温が低く強い風が吹く中での開催。来場者は秋の味覚を楽しみながらも寒さに震えていましたが、秋アジのつかみ取りコーナーだけは違いました。冷たい水の中に裸足で入る子どもたち。秋アジを追いかけ捕まえるのに必死な姿を見ていると、寒さもどこかへ行ってしまったようでした。

楽画記

■朝晩の気温が下がり日中との気温差が大きい日が続いていますね。こんな日が長くともうすぐ冬だなと感じます。皆さん冬支度はお済みですか？タイや交換に衣替えなど、やることはたくさんあるのに気温差にやられた体が重く、ついつい先延ばしにして結局ギリギリに。今年こそは早めに準備できるようながんばります。(や)

■前号ではいけないと「ホットなネタ」を1月かけて探しました。10月といえばハロウィン。私がお子どもの頃はなかった行事の一つで、「トリック、オア、トリート」と南瓜で作ったランタンを下げながら子どもたちが家々を訪れます。なぜこの季節にこんなことをするかという…あ、今度は字数が足りない。(と)

■昨年12月号の(や)さんの楽画記で私に「[アノラック]や[コールテン]が伝わらない」との話がありました。その続きで、今回は「ハトメパンチ」。皆さんはご存知ですか？専用の紙で紙などに穴を開ける道具です。実物も見せてもらいましたが、やっぱり初めて見ました。この係ではさまざまな知識が身につけられます。(た)

発行・編集

伊達市企画財政部企画課

TEL 0142-23-3331 内線238・239

FAX 0142-23-4414

E-MAIL kounou@city.date.hokkaido.jp

〒052-0024 北海道伊達市鹿島町20番地1

とじて保存しましょう

